

ビワ生育情報

第 9 報
千葉県農林水産部
令和 3 年 6 月号

6月1日現在の生育は3品種とも平年よりも早く、「楠」及び「大房」の収穫は5月下旬から始まっています。収量は平年よりやや多いと予想されます。

果実の発育

6月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が4.86cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ5.16cm、5.09cmで、3品種とも平年より長かった。

縦径は「楠」が5.49cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ5.47cm、5.59cmで、3品種とも平年より長かった。

果形指数は「楠」が0.88、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ0.94、0.91で、「楠」及び「大房」は平年より縦長傾向、「田中」は平年並みであった。

着色程度は「楠」が3.7、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.9、3.7であり、着色の進みは3品種共に平年より早かった。

暖地園芸研究所では早生品種の収穫は、「楠」は5月20日、「大房」は5月28日に始まった。本年は開花始期及び盛期、終期が平年より早い傾向にあり、また、1月から5月の月平均気温が平年よりも高かったことから、収穫期は3品種共に平年より早い傾向にある。

本年は平年に比べ、着花房率が高く、寒害の発生も少なかった。また、果実は大玉傾向である。病害虫では、果樹カメムシ類の被害は現時点では少ない。以上のことから、最終的な収量は平年よりやや多いと予想される。

表1 果実の発育（6月1日の果径）

品種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果 径 指 数			果 色		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.86	4.42	4.33	5.49	4.76	4.64	0.88	0.93	0.93	3.7	3.2	3.8
	青 木	5.05	4.97	4.86	5.41	5.12	5.18	0.93	0.97	0.94	3.8	3.1	3.8
大房	南 無 谷	5.26	5.03	5.15	5.50	5.23	5.62	0.96	0.96	0.92	3.9	3.2	3.2
	暖地園研	5.18	5.06	5.20	5.49	5.15	5.48	0.94	0.97	0.95	4.0	3.0	3.8
	平 均	5.16	5.00	5.07	5.47	5.17	5.43	0.94	0.97	0.93	3.9	3.1	3.6
	青 木	5.01	4.48	4.80	5.55	4.98	5.39	0.90	0.90	0.89	3.7	1.9	3.2
田中	南 無 谷	5.24	4.44	4.94	5.74	4.98	5.37	0.91	0.89	0.92	3.8	1.9	2.3
	暖地園研	5.02	4.54	4.75	5.48	5.01	5.41	0.92	0.91	0.88	3.7	1.9	3.4
	平 均	5.09	4.49	4.83	5.59	4.98	5.39	0.91	0.90	0.90	3.7	1.9	2.9

果形指数：横径／縦径

平年：平成3年～令和2年の30年間の平均。

南無谷は平成10年～令和2年の23年間の平均。

令和3年5月の気象

令和3年5月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第2～第5半旬では平年より高く推移し、第1、第6半旬は平年並みであった。月平均気温は18.7℃で、平年より0.8℃高く、前年より0.1℃低かった。

降水量は第1、4、6半旬では平年より多く、第3半旬は平年並み、第2、第5半旬は平年より少なかった。月合計は199mmで平年の122%、昨年の190%であった。

日照時間では第1半旬は平年より多く、第2、第6半旬は平年並み、第3～第5半旬は平年より少なかった。月合計は171時間で平年の91%、前年の92%であった。

表2 令和3年5月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	16.8	16.8	18.8	31	22	8	47	31	40
2	18.3	17.2	17.1	15	24	11	32	30	30
3	18.1	17.4	20.3	33	33	2	25	29	54
4	20.1	18.1	18.5	58	23	70	8	30	13
5	19.7	18.8	17.5	8	26	15	21	31	14
6	19.4	19.3	20.7	55	35	0	38	36	36
平均/計	18.7	17.9	18.8	199	163	105	171	188	186

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

7月の作業

7月に入り梅雨が明けると、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んになるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けた草刈り、敷き草や、カミキリムシの防除がある。

草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておくのと、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するのはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また、食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので、注意を要する。成虫は産卵のために、7～8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。防除に際しては千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従う。

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>